

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2019 年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020 年 4 月 17 日 提出

1. 研究課題名	
スタンフォード大学東アジア図書館所蔵熊本藩文人書状集内容翻刻 (英文課題名: Providing descriptive metadata and transcriptions for Collection of correspondence and poems from various officials from the Kumamoto domain)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
マツザ美恵子(まっざみえこ)	スタンフォード大学東アジア図書館
3. 研究分担者 (合計: 0 名)	

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>スタンフォード大学東アジア図書館が所蔵する「熊本藩文人書状集」(31枚の裏紙に貼られた書状・詩などからなるコレクション)は現在最小限のメタデータしか存在しないため、立命館大学 ARC の「くずし字翻刻学習・指導システム」を使用し当コレクションが既に作成済みのデジタル画像から研究代表者(マツザ)が翻刻文を作成する。翻刻文に基づきスタンフォード大学東アジア図書館 OPAC 上に公開されるメタデータの充実に努める。コレクションの規模が小さいため当コレクションを御センターのシステムを使用した翻刻作業のパイロットプログラムとして将来に活用したいと考えている。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2020 年 1 月中旬に本共同研究申請をした当初の目的は研究課題概要にあるように全書状の翻刻を完了することだった。(1)</p> <p>しかし 2020 年 3 月末日現在(2)、コレクション全体の翻刻には至らず、コレクション全体像を掴むのみにて期日を迎えることとなった。筆者は 2020 年度の国際共同研究にも継続して申請書を送る所存である。短期間の研究で判明したことは下記である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 100 点の資料のうち、漢詩が 17 点あった。 ● 83 点の書状のうち、実に 27 点が宇野騏八郎氏宛の書状だった。 ● 購入時に付随していた送り主の情報が間違っていることがあると判明したので(例: eal0014_07_01)情報を全て詳しく見直す必要が出てきた。 ● ARC くずし字データベースは画像、データの読み込みが共に早く、大変使いやすかった。 ● 手書きのくずし字は個々人のくずし方により楷書に近い手蹟のほうが解析度が高いことが分かった。 <p>2020 年度の研究申請が受諾されたあかつきには、2019 年度研究目標で実現できなかった全文書の翻刻を完了する予定である。また、熊本市の郷土史家に連絡を取り、書状内の諸事項について不明な点を問い合わせる予定である。2019 年度の経験から 2021 年までに上記の目標を達成することは十分可能だと考えている。</p>

(1)本研究にあたり直接の技術支援を戴いた立命館大学アトリサーチセンター衣笠総合研究機構准教授の金子貴昭先生に深謝する。本コレクションのデジタル化に於いて当大学図書館貴重書部門長・日本部門司書のカオ博士に有益なご助言を頂いたことに感謝の意を表す。また、コレクション画像のスキャン、フォトショップによる画質向上作業を行った貴重書部門アシスタントの五十嵐由美氏のご尽力をこの場に明記し感謝するものである。

(2)新型コロナウイルス流行の予防対策のため、当大学図書館は2020年3月10日をもち閉館した。研究申請提出が2020年1月だったため、本研究に費やせた期間は実質1ヶ月未満だった。よって、研究課題概要にあるような全書状の翻刻を完了するには至らず、コレクション全体の把握を努める最中である。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

(2) 論文

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他